

## <研究ノート>

### なりたい職業の経年変化（2009～2017年）からみたキャリア教育に関する一考察

工藤 亘

（玉川大学）

#### A Study on Career Education as Looked at from the Secular Change of Wishing to Work (2009 - 2017)

キーワード：なりたい職業、キャリア教育、経年変化

KEYWORDS：wishing to work、career education、secular change

#### 抄録

小学生がなりたい職業（2009年～2016年）は大きな変化がないこと、中学生がなりたい職業（2009年～2017年）は、男女とも情報通信技術に係わる職業に人気が移行しつつあることがわかった。高校生がなりたい職業（2009年～2017年）は、男女の共通点として専門職や技術職に就きたい傾向が高く、情報通信技術に係わる職業に関心が高まってきている。大学生がなりたい職業（2014年）では、ヒューマンサービス業、専門職・技術職、情報関連業、金融業に大別することができ、就職を希望する企業（2017年）では、大手の金融業や航空業・商社が上位を占めていることがわかった。社会のニーズや文明の発展に伴い、児童・生徒・学生がなりたい職業は数年で変化することが予想できるため、教師は児童・生徒・学生の職業観やなりたい職業を敏感に察知しながら発達段階に応じたキャリア教育をする必要がある。

#### 1. はじめに

中央教育審議会は平成23年「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(1)において、キャリア教育と職業教育の基本的方向性を以下のように示している。

「①幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること。その中心として、基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実すること。②学校における職業教育は、基礎的な知識・技能やそれらを活用する能力、仕事に向かう意欲や態度等を育成し、専門分野と隣接する分野や関連する分野に応用・発展可能な広がりを持つものであること。職業教育を再評価し、実践的な職業教育を体系的に整備していく必要があること。③学校は、生涯にわたり社会人・職業人としてのキャリア形成を支援していく機能の充実を図ること。」

これを踏まえ、キャリア教育と職業教育の内容から育成する力としてキャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度であり、職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度である。また教育活動の観点では、キャリア教育は普

通教育・専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施され職業教育も含まれている。職業教育は、具体的な職業に関する教育を通して行われ、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成する上で、極めて有効であるとされている。

平成 29 年 3 月告示の新学習指導要領総則では、平成 23 年「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」を踏まえ、子供たちの発達の支援としてキャリア教育の充実を一層図ることが小・中学校共通で示されている。

以上のようにキャリア教育（職業教育）の重要性や関心の高さは、国立情報学研究所が運営する学術情報データベース「CiNii Articles」の検索結果でも裏付けることができる。キーワードを「キャリア教育」で検索すると 5117 件、「職業教育」では 2574 件のデータが検索された。キャリア教育と職業教育は教師側の視点だけで成立するものではなく、児童生徒の主体性や意志を欠いてはならない。そのため児童生徒が主体である「なりたい職業」でキーワード検索すると 23 件の論文が見つかったが、「キャリア教育」や「職業教育」と比較すると非常に限定的であることがわかる。（2017 年 9 月 26 日検索）

そこで本研究は、キャリア教育と職業教育の充実を図るためにも主体である児童生徒学生が「なりたい職業」（2009～2017 年）に着目し、「なりたい職業」がその期間にどのように変化したかを考察し、今後のキャリア教育について検討することを目的とする。

## 2. 「なりたい職業」に関する先行研究

大城（2008）が沖縄の中学生（1088 名）を対象に実施した調査では、「男子がなりたい職業の 1 位は公務員であり、次いでプロ野球選手、教師、サッカー選手、スポーツ選手の順であった。女子の 1 位は保育士であり、次いで教師、美容師、パティシエ、看護師」(2) であった。

梅澤（2008）は朝日新聞の定期国民意識調査（2004）結果から「働いている人の半数は、やりたかった仕事ではない仕事に従事している」(3) と指摘している。

大脇ら（2009）の研究では、「大学生が職業に関する目標を持ち始めた時期は大学 3 年生が最も多く、大学 2 年生までに過半数の人が目標を持つこと」(4) がわかっている。

本田（2009）は、国際的にみて日本の教育機関における「教育の職業的意義は極めて低く、日本の学校や大学は、仕事の世界に向けて若者を準備させるという機能が脆弱である」(5) と指摘している。

ベネッセ教育総合研究所（2013）の調査によると、「高校生が職業を目的と決めて大学進学をした割合は約 3 割強」(6) と指摘している。

Forbes JAPAN 編集部は、ウェブサイト Fatherly が 2015 年 10 月に実施したアメリカの「子どもがなりたい職業ランキング 2015」を掲載した。対象は全米の 1～10 歳の子ども 500 名であった。「女子の 41% が STEM（科学・技術・工学・数学）系の職業に就きたいと回答し、男子の 32% を上回っている。男子ではプロスポーツ選手（16%）、消防士（5% 強）、エンジニア（5% 弱）、宇宙飛行士（4%）であり、女子では医師（16%）、教師（7%）、科学者（4.5%）、シェフ・パン屋・パティシエ（4%）」(7) であった。

株式会社アデコ（2016）は、日本、韓国、香港、台湾、シンガポール、タイ、ベトナムの子ども

を対象にした「将来就きたい仕事」に関するアンケート調査を実施した。その結果、「日本を含むアジア太平洋地域の7か国・地域では先生と医者が人気の仕事」(8)であり、先生と医者はいずれも3か国・地域で、将来就きたい仕事の1位に選ばれている。また日本だけ将来就きたい職業のトップ3に「会社員」が入っており、特徴の一つである。

Universum (2016) は「アメリカの大学生の人気就職先 (2016年版)」を、4分野(ビジネス、人文科学・教養・教育、エンジニアリング、自然科学)を専攻する学生のランキングを発表した。その結果「ビジネス分野を専攻する学生は、1位 Google、2位 Walt Disney Company、3位 Appleの民間企業であり、人文科学・教養・教育分野を専攻する学生は、1位 Walt Disney Company、2位 United Nations、3位 National Geographicの政府機関や非営利団体であった。エンジニアリング分野を専攻する学生は、1位 NASA、2位 Google、3位 Boeingであり、4位以下はベンチャー企業もランクインしている。自然科学分野を専攻する学生は、1位 Mayo Clinic、2位 National Institutes of Health、3位 Centers for Disease Control等の医学・公衆衛生に関する政府系研究所」(9)が上位であった。

### 3. 小学生・中学生・高校生・大学生がなりたい職業

#### 3-1. 小学生がなりたい職業 2009年・2016年の結果と考察(表1・表2)

表1.2009年小学生がなりたい職業				表2.2016年小学生がなりたい職業			
位	小学校4~6年生男子	位	小学校4~6年生女子	位	小学生男子	位	小学生女子
1	野球選手	1	ケーキ屋さん・パティシエ	1	サッカー選手・監督など	1	保育士
2	サッカー選手	2	保育士・幼稚園教諭	2	野球選手・監督など	2	医師
3	医師	3	芸能人	3	医師	3	パティシエール
4	研究者・大学教員	4	看護師	4	ゲーム制作関連	4	看護師
4	ゲームクリエイター ゲームプログラマー	5	デザイナー ファッションデザイナー	4	建築士	5	薬剤師
4	大工	6	医師	4	バスケットボール選手・コーチ	6	獣医
7	芸能人	7	理容師・美容師	7	教師	7	教師
8	バスケット選手	7	漫画家・イラストレーター	8	警察官・警察関連	7	デザイナー ファッションデザイナー
9	調理師・コック	9	学校の先生	8	水泳選手・コーチ	9	美容師
9	会社員	10	ペットショップ	10	テニス選手・コーチ	10	幼稚園教諭

出典:第2回子ども生活実態基本調査 小学4~6年生3561名  
ベネッセ教育総合研究所 <http://berd.benesse.jp/> 2016.7.19アクセス

出典:日本FP協会『将来なりたい職業』ランキングより  
[https://www.jafp.or.jp/personal\\_finance/yume/syokugyogyo/](https://www.jafp.or.jp/personal_finance/yume/syokugyogyo/) (2017.9.12アクセス)

表1・表2から小学生男子がなりたい職業は、競技種目は異なるがプロスポーツ選手が上位を占めており、その他には医師・ゲーム制作関連等が挙げられ、2009年から2016年までの経験変化はあまり見られていないと考える。小学生女子がなりたい職業は、保育士・幼稚園教諭、パティシエ、看護師・医師等が上位を占めているが、経験変化はあまり見られていないと考える。したがって2009年から2016年までの小学生男女とも、なりたい職業に大きな変化はないと考えられる。

また男子ではプロスポーツ選手やゲーム制作関連等の個人的な能力の高さが求められる職業に就きたいという傾向が高く、女子では保育士・幼稚園教諭、看護師・医師等の教育・福祉系等のヒューマンサービスに係わる職業に就きたい傾向が高いと考える。

3-2. 中学生がなりたい職業 2009年・2017年の結果と考察 (表3・表4)

表3.2009年中学生がなりたい職業

位	中学校1～3年生男子	位	中学校1～3年生女子
1	野球選手	1	保育士・幼稚園教諭
2	サッカー選手	2	芸能人
3	芸能人	3	ケーキ屋さん・パティシエ
4	学校の先生	4	看護師
5	調理師・コック	5	漫画家・イラストレーター
6	研究者・大学教員	6	デザイナー ファッションデザイナー
6	医師	7	動物の訓練士・飼育員
6	公務員	7	理容師・美容師
9	ゲームクリエイター ゲームプログラマー	9	学校の先生
10	大工	10	医師
10	コンピュータープログラマー システムエンジニア		

出典:第2回子ども生活実態基本調査 中学1～3年生:3917名  
ベネッセ教育総合研究所 <http://berd.benesse.jp/> 2016.7.19アクセス

表4.2017年中学生がなりたい職業

位	中学男子(100名)	位	中学女子(100名)
1	ITエンジニア・プログラマー	1	歌手・俳優・声優
2	ゲームクリエイター	2	漫画家・イラストレーター
3	You Tuber	3	医師
4	プロスポーツ選手	4	公務員
5	モノづくりエンジニア	5	作家・ライター
6	公務員	6	保育士・幼稚園教諭
7	学者・研究者	7	教師
7	会社経営者・企業家	8	ゲームクリエイター
9	教師・教員	9	デザイナー
9	医師	10	You Tuber・マスコミ関係

出典:中学生が思い描く将来についての意識調査2017(ソニー生命調べ):200名  
[http://www.sonylife.co.jp/company/news/29/nr\\_170425.html](http://www.sonylife.co.jp/company/news/29/nr_170425.html)(2017.12アクセス)

表3・表4から中学生男子がなりたい職業は、プロスポーツ選手や教師等からITエンジニア・プログラマーやゲームクリエイター、You Tuber等に変化していると考えられ、情報通信技術に係わる職業に人気や関心が高まってきていると考えられる。これは国家戦略の一つとして2001年に「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法」や「e-Japan 戦略」をはじめ、2006年に策定された「IT新改革戦略」、2008年に閣議決定された「教育振興基本計画」の中での教育の情報化の促進と啓蒙、2009年の「デジタル新時代に向けた新たな戦略」や「i-Japan 戦略 2015」等の影響も考えられる。

中学生女子がなりたい職業は、保育士・幼稚園教諭、看護師等のヒューマンサービスに係わる職業や芸能人やパティシエ、漫画家・イラストレーター、デザイナー等が上位を占める傾向に変化はないと考えられるが、ゲームクリエイターやYou Tuberが2017年ではみられるようになり、男子と同様に、生徒達の身近な職業として情報通信技術に係わる職業が人気となっている。

3-3. 高校生がなりたい職業 2009年・2017年の結果と考察 (表5・表6)

表5.2009年高校生がなりたい職業

位	高校生1～2年生男子	位	高校生1～2年生女子
1	学校の先生	1	保育士・幼稚園教諭
2	公務員	2	学校の先生
3	研究者・大学教員	3	看護師
4	医師	4	薬剤師
5	コンピュータープログラマー システムエンジニア	5	理学療法士・臨床検査技師 歯科衛生士
6	警察官	6	公務員
6	薬剤師	7	医師
6	芸能人	7	芸能人
9	理学療法士・臨床検査技師 歯科衛生士	9	栄養士
10	技術者・エンジニア	10	カウンセラー・臨床心理士
10	法律家		

出典:第2回子ども生活実態基本調査 高校1～2年生:6319名  
ベネッセ教育総合研究所 <http://berd.benesse.jp/> 2016.7.19アクセス

表6.2017年高校生がなりたい職業

位	高校男子(400名)	位	高校女子(400名)
1	ITエンジニア・プログラマー	1	公務員
2	モノづくりエンジニア	2	看護師
3	ゲームクリエイター	3	歌手・俳優・声優
4	公務員	4	教師・教員
5	学者・研究者	5	漫画家・イラストレーター
6	運転手・パイロット	6	保育士・幼稚園教諭
7	教師・教員	7	カウンセラー・臨床心理士
7	会社員	8	デザイナー
9	プロスポーツ選手	9	学者・研究者
10	You Tuber	9	会社員

出典:中学生が思い描く将来についての意識調査2017(ソニー生命調べ):800名  
[http://www.sonylife.co.jp/company/news/29/nr\\_170425.html](http://www.sonylife.co.jp/company/news/29/nr_170425.html)(2017.12アクセス)

表5・表6から高校生男子がなりたい職業は、教師や研究者、公務員、医師等のヒューマンサービスに係わる職業が上位を占めていたが、ITエンジニアやゲームクリエイター、ものづくりエンジニア等の専門的な技術者が上位を占めるような傾向にあると考えられる。また2017年にはYouTuberも含め、情報通信技術に係わる職業に関心が高まってきていると考える。

高校生女子がなりたい職業は、保育士・幼稚園教諭、教師、看護師・公務員等のヒューマンサービスに係わる職業が上位を占めており、その傾向は2017年もほぼ同様と考えられる。また理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士・カウンセラー・臨床心理士等の専門職も関心は高いが、2017年にはそれに代わって芸能人や漫画家の方が上位を占め、情報通信技術に係わる職業はいずれも見当たらない。

高校生の男女に共通していることは、小・中学生と比較すると専門職や技術職に就きたい傾向がみられ、自己の適性や能力、職業観等を意識し始めていると考えられる。高等学校には普通科、専門学科、総合学科があり、自らの将来を設計する時期でもあるため当然の結果ともいえる。また小・中学生に比べ職場体験やアルバイト等の社会体験が増えることや職業に関する詳細な情報量も増えるためとも考えられる。

### 3-4. 大学生がなりたい職業 2014年（表7）・就職希望企業 2017年の結果と考察（表8）

表7.2014年大学生がなりたい職業

位	職業
1	公務員
2	教員/トレーナー
3	研究者/研究施設スタッフ
4	SE・プログラマー・IT/情報関連業
5	事務職・秘書・受付
6	看護師・看護/診療助手・助産師
6	デザイナー・デザイン関連
8	エンジニア/技術者・整備士
9	銀行員・金融関連業
10	保育士/幼稚園教諭
10	医師

出典：若者層白書2014 :945名  
[https://weban.jp/contents/wakamono/jakunen2014\\_pc/04/\(2017.9.12アクセス\)](https://weban.jp/contents/wakamono/jakunen2014_pc/04/(2017.9.12アクセス))

表8.2017年大学生の就職希望企業

位	企業名
1	みずほファイナンスグループ
2	三菱東京UFJ銀行
3	全日本空輸
4	日本航空
5	三井住友銀行
6	東京海上日動火災保険
7	伊藤忠商事
8	JTBグループ
9	三菱商事
10	サントリーグループ

出典：就職情報サイト「キャリアタス就活2018」:6386名

[https://job.career-tasu.jp/2018/guide/study/ranking/2\\_1.html](https://job.career-tasu.jp/2018/guide/study/ranking/2_1.html)(2017.9.12アクセス)

表7は2014年の大学生がなりたい職業であるが、①男女別ではないこと、②2009年のデータがないために比較することができないことを断っておく。その上で大学生がなりたい職業は、ヒューマンサービス業、専門職・技術職、情報関連業、金融業に大別することができると思う。

表8は、大学生が就職を希望する企業（2017年）であるが、大手の金融業に最も人気集中しており、航空業や商社も上位を占めている。表7では公務員や教師・看護師などのヒューマンサービス業が上位を占めているが、実際には金融業への就職を希望する学生が多いということになる。表8で示された企業はいずれも日本を代表する大企業であり、その中にヒューマンサービスや専門的な知識と技術が要求される部門や情報関連部門が存在していると考えられる。また中・高・大といずれも公務員や教師がなりたい職業として上位を占める傾向にあるが、企業ではないため表8では対象外になったと推測する。

#### 4. まとめ

小学生がなりたい職業は、2009年から2016年までに大きな変化はないことがわかった。男子ではプロスポーツ選手やゲーム制作関連等の個人的な能力の高さが求められる職業に就きたいという傾向が高く、ウェブサイト Fatherly (2015) が実施したアメリカの「子どもがなりたい職業ランキング 2015」と同様傾向にあることがわかった。女子では保育士・幼稚園教諭、看護師・医師等の教育・福祉系等のヒューマンサービスに係わる職業に就きたい傾向が高いが、STEM系の職業に就きたいと考えるアメリカの「子どもがなりたい職業ランキング 2015」とは全く異なる傾向であることがわかった。また日本を含むアジア太平洋地域の7か国・地域での調査結果(2016)では「先生」と「医者」が最も人気の職業であるが、日本の場合には女子の傾向が強く反映されていると考える。

中学生がなりたい職業(2009年～2017年)は、男女とも情報通信技術に係わる職業に人気移行しつつあると考えられる。その背景にはインターネット等を利用したグローバルな情報通信基盤の拡充や国家戦略、ICT教育の推進等があり、今後もこの傾向は加速していくと考える。

高校生がなりたい職業(2009年～2017年)は、男女の共通点として小・中学生と比較すると専門職や技術職に就きたい傾向が高まることである。また中学生と同様に情報通信技術に係わる職業に関心が高まってきていると考えられ、今後は高度で専門的な情報通信技術に係わる職業への就職を希望する率が高まると考える。

以上のことから2009年以降の児童生徒がなりたい職業の上位は、ゲーム制作関連や情報通信技術に係わる職業に移行しつつあると考えられ、2018年以降の小学校段階からのプログラミング教育は重要であり、技術や知識の習得のみではなく情報リテラシーの育成と情報モラル教育が一層求められる。したがって今後のキャリア教育には、児童生徒がなりたい職業と今後の社会(高度情報化社会、知識基盤社会、グローバル社会等)の動向やニーズを敏感に察知し、それに応える体系的かつ計画的なキャリア教育が求められ、教師の弛まぬ研鑽や職業に関する幅広い情報収集が必要であると考えられる。

大学生がなりたい職業(2014年)では、ヒューマンサービス業、専門職・技術職、情報関連業、金融業に大別することができ、就職を希望する企業(2017年)では、日本を代表する大手の金融業や航空業・商社が上位を占めていることがわかった。大学生は中・高生に比べ卒業後の就職率が顕著に高いため、就職に対する意識も高く、自分の能力や適性にあった企業を求め、雇用条件や労働条件を加味し、理想と現実を踏まえながら将来設計や働き方、経済状況や国際情勢等を視野に入れて就職活動を実施していると考えられる。

その一方で、Frey & Osborne (2013) は、今後20年以内にはアメリカの総雇用者の約47%の仕事がコンピューターに取って代わられ消滅するという結論を発表している。そしてAI化していなくなる職業は、小売店販売員、会計士、一般事務、セールスマン、一般秘書、カウンター接客係、レジ・切符販売、荷物の箱詰め・積み下ろし作業員、金融取引記録保全員、大型トラック・ロータリー車の運転手等が挙げられている。

また野村総合研究所(2015)は、今後10～20年後には日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能であると発表した。人工知能やロボット等による代替可能性が高い100種の職業の中には「銀行窓口係・一般事務員・受付係・経理事務員・人事事務員等・各種技師」があり、大学

生がなりたい職業「銀行員」「事務職・秘書・受付」や就職を希望している大手銀行・総合商社には影響が出てくるとも予想される。一方で人工知能やロボット等による代替可能性が低い100種の職業には、大学生がなりたい職業「教員・保育士・幼稚園教員・医師・大学教員・デザイン関連」が含まれており、教職・福祉職といったヒューマンサービス業や研究職・専門職は人工知能やロボット等では勤まらないと考える。

井上(2016)は、機械に奪われにくい仕事として「クリエイティビティ系(創造性)」、「マネジメント系(経営・管理)」、「ホスピタリティ系(もてなし)」(10)の3分野を挙げている。

以上のような今後の世界的な動向や雇用状況等を踏まえ、大学ではグローバルかつマクロな視点をもったキャリア教育が求められ、大学生に対しては1年生の早期段階から就職に対する動機づけと自己理解・社会理解・職業理解が必要であり、徐々に自己実現に必要な知識とスキルを習得させ、4年生では進路決定と進路を見据えた知識とスキルの取得ができるように計画的・継続的なキャリア形成支援が必要であると考えられる。

社会のニーズや文明の発展に伴い、児童・生徒・学生がなりたい職業は数年で変化することが予想できるため、教師は対象となる児童・生徒・学生の職業観やなりたい職業を敏感に察知すると同時に発達段階に応じたキャリア教育をする必要があると考える。

#### <引用文献>

- (1) 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1300202.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/shiryo/attach/1300202.htm).  
(2017.9.26 アクセス)
- (2) 大城亘武『なりたい職業—中学生のハローワーク?—』日本教育心理学会第50回総会、2008年
- (3) 梅澤正『職業とは何か』講談社現代新書、2008年、p.28
- (4) 大脇錠一、脇田弘久、小見山隆行、伊藤万知子、新井亨、大久保八重『大学生の就職意識に関する調査研究』愛知学院大学流通科学研究所、流通研究(15)、2009年、pp.41-43
- (5) 本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年、p.104
- (6) ベネッセ教育総合研究所『高校生の大学選択の基本要因に関する研究』2013年 <http://berd.benesse.jp/koutou/opinion/index2.php?id=2009> (2017.9.18 アクセス)
- (7) アメリカの「子どもがなりたい職業ランキング2015」  
<https://forbesjapan.com/articles/detail/10791> (2017.9.18 アクセス)
- (8) 日本を含むアジア太平洋地域の7か国・地域の子どもの「将来就きたい仕事」  
<http://www.adecco.co.jp/about/pressroom/investigation/2016/0106/> (2017.9.24 アクセス)
- (9) 「アメリカの大学生の人気就職先(2016年版)」  
<http://universumglobal.com/> (2017.9.24 アクセス)
- (10) 井上智洋「人工知能と経済の未来—2030年雇用大崩壊—」文春新書、2016年、pp.160-161

<参考文献>

原田恵理子、森山賢一編著「ICTを活用した新しい学校教育」北樹出版、2015年

Frey & Osborne (2013) 「The future of employment : How susceptible are jobs to computerisation? 」 [http://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/The\\_Future\\_of\\_Employment.pdf](http://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/The_Future_of_Employment.pdf) (2017.9.29 アクセス)

野村総合研究所 (2015) [https://www.nri.com/jp/news/2015/151202\\_1.aspx](https://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx) (2017.9.28 アクセス)

寿山泰三、宮城まり子、三川俊樹、宇佐美義尚、長尾博暢「大学生のためのキャリアガイドブック vol.2」北大路書房、2016年